

---

## 健康長寿への取り組みと、人や地域とのつながりづくりを

～第57回四国老人クラブ大会が開催されました～

---

去る8月5日、『いで湯と城と文学のまち』愛媛県松山市において、「第57回四国老人クラブ大会」が開催され、四国各県の老人クラブリーダーら約370名が参加しました（本県39名参加）。

まず初めに行われた式典では、篠崎 英夫大会長（愛媛県老連会長）の挨拶に続き、各県において老人クラブの発展に寄与された14名に対し、表彰状と記念品が贈られました。

※本県関係者（3名）

坂本 勉（小松島市）、岡部 文（阿南市）、  
岡本キク子（つるぎ町）

記念講演は、元NHKアナウンサーであり、楽しい俳句の伝道師でもある八木 健氏が「50句で学べる俳句のすべて」と題して、講演を行い、興味深い話に参加者も聞き入っていました。



休憩をはさんで大会後半に入り、各県の会長を議長団とする事例発表に移りました。第56回大会の処理報告に続き、事例発表では本県から佐那河内村老連 小河 宏 理事が「地域における交流、伝統、伝承活動」と題して発表を行い、保育園児や小学生とふれあい農園でのばれいしょづくりを通じた交流や、地域に古くから伝わる「大数珠まわし」や「御神踊り」などの伝承活動が紹介されました。

活発な質疑を終え、大会宣言の決議に移り、伊丹 一夫 徳島県老連会長が宣言文案を朗読、満場一致の拍手で決議され、健康長寿を目指す健康づくり・介護予防活動の推進等5項目の実践を誓いました（下記参照）。

閉会行事に移り、次期開催県である高知県老連会長が挨拶、最後に万歳三唱が行われ全日程を終了しました。



## 大会宣言

私たち老人クラブは、「健康・友愛・奉仕」の全国三大運動を支柱とし、生きがいと健康づくりに取り組むとともに、半世紀にわたって、地域の安心と健全な発展に貢献すべく日々努めてまいりました。

しかし、都市化の進展や世帯構造の変化に伴い、人と人とのつながりが薄れ、地域社会の結びつきも弱くなっており、それとともに、様々な世代の社会的孤立状況が浮き彫りとなっています。

このような中、高齢者を代表する組織である老人クラブには、健康長寿への取り組みとともに、地域に対する深い愛着と豊かな経験を持って、人や地域社会の創出に貢献していくことが求められております。

今、ここに四国四県の老人クラブ会員は、友情と連帯の輪を広げながら、各世代の人々と連携して、少子高齢化時代の地域づくりに取り組んでいくことを誓い、次のことを宣言します。

### 記

1. 健康長寿を目指す健康づくり・介護予防活動の推進
1. 地域社会と連携した安全・安心の地域づくりを推進
1. 「100万人会員増強運動」に呼応した取り組みの推進
1. 豊富な経験や知識を活かした楽しい活躍の場づくり・機会づくりの推進
1. 社会奉仕活動を通じた老人クラブのPR活動の推進